

【概要・目標】

特別研究：山田 忍

院生各自の研究・教育・実践の関心領域を核に、「がんと共に生きる」を基軸に QOL の高い生活支援を目的とします。その際「看護理論」に裏打ちされた「看護」の体系化を大切にします。ゲノム医療，免疫治療など患者の意思決定を支える支援は拡大しています。看護の独自性の中でこれからの時代を見据えた患者支援を探求していきます。

【授業内容・スケジュール】

院生各自の研究・教育・実践の関心領域を中心に、「がんと共生」を基軸とした QOL の高い生活支援を目的に課題研究に取り組む。その際「看護理論」に裏打ちされた「看護」の体系化を大切に、ゲノム医療など最新の医療を踏まえ、海外の研究の動向と日本の研究の動向、課題を探求しながら自分自身の研究課題を見いだす。

- ① - ⑧ ストレス理論に関する海外の研究と日本の研究を比較検討し研究課題を探求する(講義と演習)。
- ⑨ - ⑯ 危機理論に関する海外の研究と日本の研究を比較検討し研究課題を探求する(講義と演習)。
- ⑰ - ⑳ 全人的苦痛(スピリチュアルペイン)に関する海外の研究と日本の研究を比較検討し研究課題を探求する(講義と演習)。
- ㉕ - ㉚ オレムセルフケアに関する海外の研究と日本の研究を比較検討し研究課題を探求する(講義と演習)。
- ㉓ - ㉟ アドバンス・ケア・プランニング(ACP)における海外の研究と日本の研究を比較検討し研究課題を探求する(講義と演習)。
- ㉫ - ㉯ がん看護における介入研究の動向と課題を文献を提示しディスカッションする(講義と演習)。
- ㉷ - ㉽ がん看護における最新のガイドラインを構築する研究に関して文献を提示しディスカッションする(講義と演習)。
- ㉿ - ㊀ 個々の学生が研究の課題に基づいた研究の方向性を、先行研究を基にまとめプレゼンテーションする(講義と演習)。

【評価】

文献クリティークの状況とディスカッションへの参加態度 50%

課題レポート 50%

【テキスト】

研究テーマに関係した文献を授業の中で紹介する。

【推薦参考図書】

【その他】

連絡先： yamada-s@wakayama-med.ac.jp